

第4次松戸市食育推進計画(案) パブリックコメント(意見募集)手続 実施結果

- 1 意見募集期間：令和5年1月4日(水)から2月3日(金)まで
- 2 計画(案)閲覧方法：市ホームページ、健康福祉政策課、行政資料センター、各支所、図書館本館・地域館・分館、まつど市民活動サポートセンター
- 3 意見提出者数：5名
- 4 意見件数：11件
- 5 意見提出方法及び内訳：持参0件、郵送0件、FAX0件、電子メール5件、意見提出専用フォーム6件
- 6 提出意見及び市の考え方：以下のとおり
 ※提出意見のうち、松戸市情報公開条例第7条に規定する非開示情報に該当する箇所は削除しています。

No.	章	項	提出意見	提出意見に対する市の考え方	修正有無
1	-	-	<p>名誉市民の村上信夫のキャラクター性を市の風土として活かすべきと思います。</p> <p>かつて小金原住民であった帝国ホテル総料理長で64年東京オリンピック選手村食堂総責任者だった村上信夫氏現在の市内料理人でも彼の姿勢を尊敬して食に関わる事業を継続している者もいます。</p> <p>村上氏はNHK「今日の料理」にて一般家庭の主婦をに向けてフライパンの使い方など 油はねを怖がらない使い方など 加熱の加減より、まずは安全性など優しさが伝わる説明がされている、是非、キャラクターデザイン、姿勢を真似た伝え方かつてのビデオグラム資産の活用などを活かして欲しい。</p> <p>(個人名)氏はまさにその1人で(特定の個人を識別できる情報)ジビエ料理を通じて素材の大切さを身をもって体験しています。</p> <p>農地での害獣被害、鳥疫病による駆除、海水温上昇による海洋生物漁獲高減少 生鮮品で有効に得られる栄養素もある</p> <p>水溶性素材は油はねなど料理の安全性に、かつての基本的な技術や、魚介類・魚類ごとによる食べやすさ・美味しさがあります。</p> <p>現在、自分で釣り・猟・野菜栽培・地産品生産者との関わり・各市内学校に同数の食堂を芽差す子ども食堂。多数の高齢者が住んでいる集合住宅での消化とバランスの良い食の欲求と、生産良好で安値となっている食材の有効な流通とレシピなど</p> <p>ロスを少なくする通信、食べやすくなる、“察しのコミュニケーション”無駄のない有効な栄養素の分かち合い”高まっているボランティア精神と異常気象による衛生管理、お酢・クエン酸・冷凍による寄生生物の死滅方法など、安全判断の目安・見える化、和食出汁の旨みなど、工夫の用途は健康だけでなく、安全性・経済性向上にも繋がります。</p> <p>1学年10クラス40人以上あった市内小中学校の活気。食育によるエリア成長の影響は大きい。</p> <p>市内には、貴重な伝説の賢人活躍の資産を喪失することなく有効に活かして欲しい。</p> <p>かつて帝国ホテルで村上信夫氏と肩を並べて修行した料理人で今でも洋食屋で営業されている方もいます。</p> <p>是非、市内に残っているエピソードなども拾い上げて残して欲しいです。</p>	<p>市といたしましても、食に関わる市民や団体との連携によって食育を推進することは重要と考えており、第4次松戸市食育推進計画(案)(以下、「本計画(案)」という。)においては飲食店等の事業者と連携した食育の推進を目指しております。貴重なご意見として、今後の事業の参考とさせていただきます。</p>	無

No.	章	項	提出意見	提出意見に対する市の考え方	修正有無
2	-	-	<p>かつて世界一の人口都市となった江戸がありました。爆発的な人口増加が起こり、より多量の食糧供給が必要となりました。幕政目付け役の水戸藩と連携しルート周辺の物資と外洋魚介類の流通ルートを確立します</p> <p>銚子の水揚げからの流れの始まり。薩摩（島津）・福岡（黒田）の大名普請で整備された利根川を水路として日光街道（水戸道中）の布佐宿までの安定した水路輸送。房総（千葉県）北西部の角崎地形から布佐宿から幕府直轄領の小金牧（中の牧、お鹿狩りの猟場）や松戸市市内の五助木戸（銚子屋、五香十字路）を通過し松戸宿の松戸納屋河岸から日本橋へ常夜灯を使い夜通しで大都市江戸を助ける生鮮品食材調達のために松戸市内を横断する流通ルート。如何にして生鮮品をいち早く江戸に届けたか？</p> <p>また江戸湾内ともまた異なる栄養源。北関東は東日本大震災による風評被害でこれからも心理的な被害を受ける。現在では農産品のバトンパートナーでもある。北茨城のアンコウなどの魚介類、ルート上の近隣の生鮮野菜。</p> <p>かつての松戸市内での食の伝達と日本橋との文化交流は第二次世界大戦戦後復興の常磐線による行商にも繋がる平成に入っても常磐線上野駅にて行商の荷をサラリーマンが手伝う姿もありました。</p> <p>その根底は、松戸市エリアも横断していた鮮魚街道の風土意識。</p> <p>近年、集合住宅在住者の高齢化は進み地産品の活用が見えにくくなり健康維持の多様性も細分化されてきています。納豆の乳酸菌、水溶性の野菜繊維質。そして食欲を引き出す味の重要な要素となる生鮮品の色味と香り。老若男女の地域コミュニティの情報伝達・食育の重要性はより高まる。食材の良さは、欠かせない情報となります。</p> <p>市内でも、ミツバやフキなど季節を感じる自生植物もあり臭覚で通じるには知識・体験が必要となります。実体験の豊富さは、花鳥風月の感覚にも通じ机上の頭でっかちの許容を超えます。それはサブカルチャーのアニメーションのキャラクター設定やドラマ・演劇の演出・役割 対話や人材適用の機会、社会文化にも通じコンパクトシティ・スマートシティの構築、ダイバーシティの原動力となります。</p> <p>食育は廃棄を減らすだけでなく都市の活性化にも通じます。</p> <p>より公平な生鮮情報の伝達は行動分析に通じるビッグデータ。フィトンチッドだけでなく、都市社会風土の活性化・健全・健康的な情報の伝達にもなります。</p> <p>幅広い観点からの豊かな食育情報の活かし方。マズローの物欲の欲求段階ではない俯瞰した観点も想定されて欲しいと思います。</p>	<p>市といたしましても、食育は健康づくりや地域の活性化など、多様な分野に関連するものと認識しております。</p> <p>本計画(案)においては、農作業体験や地産地消の推進、郷土料理の保護や継承等を基本施策として定めており、松戸市の特色も活かしながら、様々な分野の食育に取り組むことを目指しております。貴重なご意見として、今後の事業の参考とさせていただきます。</p>	無
3	第1章 第2章 第3章	8, 14, 39 他	<p>第4次松戸市食育推進計画(案)について</p> <p>松戸市矢切地区に農地を所有しており、かつこの先農業を続ける気がない市民としての意見です。</p> <p>矢切地区に水田を所有する農家の多くが兼業であり、狭すぎる農地で採れる農作物は量が少なすぎて農協に売るほどにもなりません。各家庭で食べるか、せいぜい知り合い親戚に売る程度です。売ったとしても儲けにはならない売り上げです。</p> <p>しかし水田を所有している以上、毎年嫌でも耕作を続けなくてはなりません。売り物にならない米を作るために高い肥料や農具を使い、時間と労力をかけて農業を行う。それを経て出来上がった米は売り物にならないので古米、古古米と各農家の在庫となってしまう。あまりにも長年在庫として残り過ぎた米は、廃棄するしかない。これが農家の現状です。</p> <p>耕作にかかる苗代、肥料代、機械の維持費、労働時間を考えると、確実に赤字です。赤字になるのが分かっているのに、「たまたま農家の家に生まれて農地を所有している」というだけで、売り物にならない無駄な米を生産し続けなければなりません。いわば、「食品ロスを生むための原因」です。</p> <p>p14で紹介されているSDGsの項目の通り、SDGsの目標に「貧困をなくそう」というものがあります。しかし、矢切地区の農家は毎年赤字確定で農業を続けなくては行けないため、必然的に「儲けの出ない貧困層」となってしまいます。</p> <p>(次ページに続く)</p>	(次ページに記載)	

No.	章	項	提出意見	提出意見に対する市の考え方	修正有無
3	第1章 第2章 第3章	8, 14, 39 他	<p>p20では松戸市内での出生率の低下が問題とされていますが、赤字確定の農家に生まれてしまった以上とても子供を産む気にはなれません。もし自分が子供を産んだら、我が子にも同じ農業の苦しみを味わわせなければならぬからです。</p> <p>周辺農家も多くが後期高齢者となっており、あと数年ですますす矢切地区の農業従事者はいなくなるでしょう。高齢の農家はどんどんいなくなり、跡を継ぐ若手もいない。この現状でも矢切地区の農地を未来に残すメリットはありますか？</p> <p>矢切の渡しに乗って松戸市へ来る観光客の多くは、江戸川の土手を上ることすらなくその場でとんぼ返りが現状です。仮に観光客が矢切の農地を散歩したとしても、その人たちが農業従事者にお金を落としてくれることはありません。ただぶらぶらと散歩して帰るだけの人が松戸に来たところで、一切の観光資源にはなりません。必要な農地というのはあくまでも「儲けとメリットを産む農地」です。矢切地区のように赤字にしかならず廃棄になるだけの米を、ただ手間とコストをかけて産む農地を残して何のためになるのでしょうか？</p> <p>私は農業を継ぐ気がありませんし、農地もいりません。今すぐにも手放してしまいたいと思っています。しかし、松戸市がそれを許さない限り私は死ぬまで利益の出ない無駄な農業を続けて、家庭を持ち子供を産むというごく当たり前の幸せを手に入れることすらできません。松戸市の市政により、一生農奴として暮らすしかありません。</p> <p>隣の流山市では、江戸川沿いにある農地に大型の物流倉庫が建設されました。建設のために市街化調整区域だった農地を、市街化区域に編入手続きを行っています。このような政策もあり、流山市は6年連続人口が増加しており、住みたい街ランキングにも入るほど発展しています。</p> <p>矢切地区は安倍政権の頃に定められた「近くに大型の道路があるなら市街化調整区域であっても物流倉庫が建設できる」という条件も満たしています。更に千葉県に問い合わせたところ、矢切地区に物流倉庫を建てるのは法的にまるで問題がないとのことでした。市長が上程して議会在承認すれば建設が進められるとのことでした。</p> <p>もしも大型物流倉庫の建設許可が下りれば、赤字に苦しむ農家は unnecessary 農地を売却でき貧困から脱却できます。大量雇用が望めるので税収も期待でき、松戸市内に就職する人も増えるでしょう。つまり、松戸市民の生活が豊かになるため食生活も安定し、恵まれた環境の中子供を産み育てられるということです。農業には苗木や肥料、機材なども必要不可欠ですから、物流倉庫を建設すれば農業に必要な物の運搬もスムーズになり、結果的には豊かな農業や食料自給率の上昇にも役立ちます。p45での「食に関わる社会・環境・文化の整備」を実現する為の大きな基盤にも繋がるのではないのでしょうか。</p> <p>コストをかけて廃棄するだけの無駄な農作物しか生まない矢切地区の農地を残したところで、松戸市の役に立つのか。農地を持っているだけで赤字になってしまう農業従事者の貧困化を解決するにはどうするべきなのか。今一度市民の意見にしっかりと耳を向け、改善してほしいと思います。</p>	<p>本計画(案)においては、生産者への理解の醸成や地産地消の推進等を通じた市の農業振興を目指しています。</p> <p>「松戸市都市農業振興計画」においても、農業従事者への経営支援、市の農産物のPRや販路の多角化等を通じた販売力の強化を目標としており、ソフト面での農業従事者への支援にも取り組んで参ります。</p> <p>なお、市街化調整区域の土地利用については、「松戸市都市計画マスタープラン」などの計画に関連するものであることから、いただいたご意見について、関係部署とも共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>	無
4	第3章	41, 42	<p>第4次松戸市食育推進計画案に対する意見</p> <p>41ページから、市民のライフステージに応じた食育の推進 が書かれています。しかし、実績値が無く、効果があったのかどうか分かりません。42ページ 学校給食など、何校で何を実施できたのか。ほとんどが「維持」となっていますが、どう維持しているのかが伝わってきません。</p> <p>私としては老若男女問わず「食と農」の学びをする機会が松戸市だからこそできると思っています。予算が少ない現状で難しいかもしれませんが、頑張ってください。</p>	<p>41ページから53ページは、各基本施策に関連のある主な事業を列挙し、その方向性を掲載したもので、個別に実績等は調査しておりません。</p> <p>しかしながら、令和3年度に食育に関する市民アンケート調査を実施し、市の食に関する現状等を調査しております。結果として多数の項目で数値が悪化しておりますので、各事業が効果的な事業となるよう関係部署とも協議し、改善を図って参ります。</p> <p>また、本計画(案)においては、基本施策2-①「生産者との交流や農作業体験の推進」を重点施策として設定しておりますので、市民が農業に触れる機会の創出に努めて参ります。</p>	無

No.	章	項	提出意見	提出意見に対する市の考え方	修正有無
5	第1章 他	9 他	<p>意見の該当ページと案文中からの抜粋： 9ページ(2)計画の位置づけ 第4次松戸市食育推進計画(案)概要(県)第4次千葉県食育推進計画(令和4年度～令和8年度)II生産から消費まで食のつながりを意識した食育の推進</p> <p>意見：第4次松戸市食育推進計画は松戸市都市農業振興計画や松戸市ごみ処理基本計画(食品ロス削減推進計画)などとの連携・調和を図るとしています。食品ロスの対象となる未消費の食品だけでなく、消費後に発生する食品残渣もごみとして処理されています。近年、土壌中のミネラルの減少が指摘され出しましたが、私は早くからこの問題を懸念してきました。農業生産物を土に還さずに焼却処分して廃棄物処分場に集約していれば、微量栄養素が減少することは明らかだからです。持続可能な食料生産と食を実現するためには、バイオマスの循環が必要となります。食品ロス削減だけでなく、また生産から消費まででなく、消費後を含むバイオマスの循環という視点を計画に盛り込んでください。同様に、食料自給率が著しく低い日本で持続可能な食料生産と食を実現するためには、農地そのものを増やす必要があるため、新松戸駅東側の市民農園および矢切の耕地の保全を市の計画に位置付けて、これらの保全計画を食育推進計画と連携させてください。</p>	<p>バイオマスの活用につきましては、「松戸市都市農業振興計画」において有機質堆肥を利用した土壌改良の推進を、「松戸市ごみ処理基本計画」においては食品残渣の堆肥化・飼料化や廃食用油の燃料化を施策として記載しておりますので、本計画(案)につきましては原案のとおりといたします。</p> <p>また、新松戸駅東側の市民農園や矢切の耕地の保全につきましては、土地利用に関わるものであり、現時点で本計画(案)において言及できるものではございません。いただいたご意見については、関係部署とも共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>	無
6	第2章 第3章	30, 39, 40	<p>意見の該当ページと案文中からの抜粋： 30ページ(2)第3次松戸市食育推進計画の評価 基本施策 基本目標1食の大切さを見直し、のぞましい食習慣を身に付ける 基本施策①食品ロスの削減等、食の循環を意識した取組を推進する 基本目標2地域で採れる食材の魅力や食の成り立ちを学ぶ 基本施策②オーナー農園、市民農園等の農業体験活動を促進する【重点】 39ページ基本目標2食に関わる社会・環境・文化の整備 40ページ4.基本施策</p> <p>意見： 第3次松戸市食育推進計画には「食の循環を意識した取組」や「市民農園等の農業体験活動」という重要な基本施策が盛り込まれているので、これらを第4次松戸市食育推進計画でも踏襲してください。</p>	<p>食の循環につきましては、本計画(案)49ページ、基本施策2-④「食品ロス削減、環境に配慮した消費の普及」に関連がございますので、同施策の説明文を以下のとおり加筆修正いたします。</p> <p>修正前：…食品ロス削減やエシカル消費など、<u>環境</u>や食に携わる人々への配慮に繋がる食育を推進します。</p> <p>修正後：…食品ロス削減やエシカル消費など、<u>食の循環や環境への意識</u>、食に携わる人々への配慮に繋がる食育を推進します。</p> <p>なお、市民農園の活用や農業体験につきましては、本計画(案)においても基本施策2-①「生産者との交流や農作業体験の推進」を重点施策として定めております。</p>	有

No.	章	項	提出意見	提出意見に対する市の考え方	修正有無
7	第2章	36	P36 指標及び目標値の達成状況について 【意見】 悪化しているものに△を付けているのは、ごまかしです。本来は×とするべきです。6項目のうち、5項目が×。○となった項目も、改善されているものの、目標値に届いていません。この達成状況があるにも関わらず、3次食育計画が失敗したことを認め、反省から始めなくてはならないのが第4次食育計画だと思いますが、そういう形には見えません。とりあえず「計画」さえ作れば良いわけではないし、「食育」はこれからもっと必要になると思うので、しっかりと反省の上で始めてほしいと思います。	「△」を「×」の記号に修正いたします。 市といたしましても食を取り巻く状況が悪化していることは認識しておりますので、食育の推進に努めて参ります。	有
8	第3章	41～53	P41～53 【意見】 「基本施策を主な事業」が列記されていますが、数えてみると、「新規」は2つしかなく、「拡大」がようやく12、ほとんどが「維持」で81もあり、計画のやる気がほとんど感じられません。先に書いたように、前期計画の達成状況が悪いのですから、「維持」にとどまることなく、少しでも「拡大」にしてほしいと思います。	「オーナー農園」事業につきましては、担当部署と協議のうえ実施区画の増加等を目指し、令和5年度以降の方向性を「拡大」に修正いたします。 当該ページには本計画(案)作成時点での各事業の方向性を記載しておりますが、本計画期間の開始以降も関係部署と協議、連携し、各事業の拡大に努めるほか、新規事業の実施も検討して参ります。	有
9	第3章	47	P47 食育にとって、生産の場として、農業に触れる機会を増やすことは重要です。農政課による「オーナー農園」と、みどりと花の課による「市民農園」を「拡大」してください。また、教育委員会の学習指導課による「小中学校の農業体験」も、特定の学校での実施で、お茶を濁すことなく、小中65校全ての学校で実施できるように拡大へ向けて努力してください。	「オーナー農園」事業につきましては、担当部署と協議のうえ実施区画の増加等を目指し、令和5年度以降の方向性を「拡大」に修正いたします。 他の2事業につきましては農地所有者の意向や地域の特性も関わるため、現時点で拡大の予定はございませんが、貴重なご意見として関係部署と共有し、今後の事業の参考とさせていただきます。	有
10	第3章	49	P49 学校給食残渣については、私が加入している「生ごみ資源化を考える会」の、松戸市議会への「学校給食生ごみの堆肥化を求める陳情」をきっかけに始まったもので、廃棄物対策課による「学校給食残渣資源化モデル事業」の他に、教育委員会財務課による「学校給食残渣堆肥化リサイクル事業」があります。松戸市立の小中学校65校は、全て自校式で給食を作っています。 教育財務課による堆肥化は、各学校に堆肥化装置を置いてあるのですが、廃棄物対策課の資源化は、給食残渣を集めてまわるので、いろいろと問題があって全ての学校の給食残渣を資源化するのは難しいのですが、現状維持ではなく、少しずつ拡大して、堆肥化を含めて、全校の給食残渣を資源化してほしいです。 また、市内に保育所・保育園が68か所、認定こども園が11か所あります。毎日、給食が提供されていますので、こちらは、毎日回収するのは難しいので、堆肥化装置を設置しての給食残渣の堆肥化をめざしてほしいと思います。	給食残渣の堆肥化・飼料化につきましては、現時点で拡大の予定はございませんが、貴重なご意見として関係部署と共有し、今後の事業の参考とさせていただきます。 また、児童生徒の嗜好の偏りによる給食残渣を排出させないことも重要と考えております。さらに、調理方法の工夫などを行い児童生徒が興味・関心を持つ給食になるよう努めて参ります。	無
11	-	-	【その他の意見】 「食育」は、食についての教育ということなので、教育委員会との連携をさらに深めてほしいです。教育財務課との関係はいくつかありますが、学習指導課とは、「農業体験学習」しかありません。小中学校、市立高校のカリキュラムに「食育」を位置づけるように、働きかける必要があると思います。	各校が年間の指導計画の中で食育に取り組むことを定めておりますので、引き続き関係部署間で連携を図り食育の推進に努めて参ります。	無

7 市による修正：誤記を以下のとおり修正。

No.	章	項	該当箇所	修正内容
1	第2章 参考資料	18 66	(3)市の農業の現状、①農業の現状、注釈部分 用語解説内	「農業センサス」を「農林業センサス」に修正いたします。
2	第2章	35	③モデル事業の主な実績と評価、「事業名称」欄、「食育教材の作製」	「作製」を「作成」に修正いたします。
3	第3章	51	基本施策2-⑥大学・事業者との連携による食育の推進、「主な事業」表	「クリンクル協力店」事業について、同表内に重複して掲載していたため削除いたします。